

氏名

点数

点/100点

## 各論演習 15-1

問1)

メラス社では製品Aを製造販売している。そこで、次の資料にもとづいて、下記の各問に答えなさい。

(製造間接費の当期予算資料)

当社は、前期の製造間接費実際発生額と実際機械作業時間の月別データから高低点法によって、当期の変動費率と固定製造間接費（月間）の予定を求めている。なお、当社の正常操業度は基準操業度150時間（月間）を100%とすると、その80%から120%である。

前期の製造間接費実際発生額と実際機械作業時間の月別データ

月	製造間接費発生額	機械作業時間
4	£ 141,600	112.50時間
5	£ 142,800	116.25時間
6	£ 157,200	135.00時間
7	£ 165,600	150.00時間
8	£ 171,600	157.50時間
9	£ 180,000	165.00時間
10	£ 158,400	142.50時間
11	£ 151,200	120.00時間
12	£ 164,400	150.00時間
1	£ 166,800	153.75時間
2	£ 172,800	161.25時間
3	£ 193,200	180.50時間

変動費率と固定製造間接費（月間）を求めなさい。

解1)

【問1】

変動費率

£

固定製造間接費

£

氏名

点数

点/100点

## 各論演習 15-2

問1)

(株)マイクロフトでは製品Aを製造販売している。そこで、次の資料にもとづいて、月間損益分岐点販売量、当月の安全余裕率、当月の経営レバレッジ係数を求めなさい。

(資料)

- ① 製品Aの販売価格は1台10,000円であり、当月の販売量は300台だった。
- ② 単位あたり製造原価  
直接材料費 2,000円  
直接労務費 2,400円  
変動製造間接費 800円
- ③ 固定製造間接費 (月) 640,000円
- ④ 単位あたり変動販売費 400円
- ⑤ 固定販売費及び一般管理費 (月) 548,000円

解1)

損益分岐点販売量  台安全率  %経営レバレッジ係数

氏名



点数

点/100点

## 各論演習 15-3

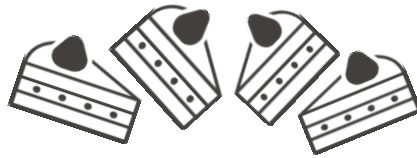
問1)

“甘すぎるショートケーキ”（以下、Aケーキという。）の生産・販売会社である㈱ディオゲネス・クラブは、現在、翌期の利益計画を策定中である。パティシエなどの生産部門や本社へのヒアリングによると、翌期においても、製品単位あたり変動費および年間の固定費額は当期と変わらないだろうという。

そこで、以下の当期の業績を参考に各問を答えなさい。なお、ケーキは生ものなので、仕掛品や製品の在庫はゼロを実現している。

(当期の業績)

売上高		@600円×1,875個		1,125,000円
原価	変動費	変動売上原価	@330円×1,875個	618,750円
		変動販売費	@60円×1,875個	112,500円
	固定費	固定製造原価		147,613円
		固定販売費・一般管理費		111,527円
営業利益				<u>990,390円</u>
				<u>134,610円</u>



- 【問1】 当期と同一の販売単価で売るとして、翌期における損益分岐点売上高を計算しなさい。
- 【問2】 当期と同一の販売単価で売るとして、翌期における損益分岐点販売数量を計算しなさい。
- 【問3】 翌期の目標営業利益233,310円と設定した場合の販売数量を計算しなさい。なお、販売単価は当期と同一とする。
- 【問4】 翌期においては、同業他社が新製品“ほどよく甘いショートケーキ”を発表するようである。これに対抗してAケーキの販売単価を10%値下げする案が浮上した。値下してでも当期と同額の営業利益を達成するには、何個販売しなければならないか。
- 【問5】 マーケティング部長によれば、上記【問4】で計算した販売数量は達成が困難であり、販売単価を10%値下げしても販売数量は2,400個が限界とのことである。しかし、この販売単価と販売数量を前提としても、当期と同額の営業利益は達成したい。そこで、固定費に含まれている広告宣伝費を削減することに決定した。固定販売費・一般管理費はいくら以内におさめなければならないか。

解1)

【問1】  円【問2】  個【問3】  個【問4】  個【問5】  円